

描いた、音に乗せて。

◎開館時間 | 9:30~17:30 (毎週金・土曜日は20:00まで) ※入館は閉館の30分前まで
◎休館日 | 月曜日、5月7日 [木] (ただし、3月30日 [月]、5月4日 [月・祝] は開館)

観覧料 (税込)	一般	大学生	高校生
	2,200円	1,300円	1,000円

※中学生以下無料、障害者手帳をお持ちの方とその付添者(1名)は無料(それぞれ学生証等年齢の確認できるもの、障害者手帳をご提示ください)。※国立美術館キャンパスメンバーズ加盟校の学生・教職員は、学生証・職員証の提示により本展を学生1,100円、教職員2,000円でご鑑賞いただけます。※観覧当日に限り本展の観覧券で同時開催の「北斎 富嶽三十六景 井内コレクションより」展、常設展もご覧いただけます。

特設サイト | <https://2026ciurlionis.nmwa.go.jp>
X | @NMWATokyo
Facebook | @NationalMuseumofWesternArt
Instagram | @NMWATokyo
お問い合わせ | 050-5541-8600 (ハローダイヤル)



特設サイト



交通案内 | JR上野駅下車(公園口)徒歩1分
京成電鉄京成上野駅下車徒歩7分
東京メトロ銀座線・日比谷線上野駅下車徒歩8分
※当館に駐車場はございませんので、お車でのご来館はご遠慮ください。
〒110-0007 東京都台東区上野公園7-7 <https://www.nmwa.go.jp/>



M. K. Ciurlionis

The Inner Constellation

チュルリョーニス展

内なる星図

2026

3 /

6 /

28 [sat]

14 [sun]

◎主催 | 国立西洋美術館、読売新聞社、国立M. K. チュルリョーニス美術館 ◎特別助成 | リトアニア共和国文化省
◎助成 | 国立西洋美術館柴原慶一基金 ◎後援 | J-WAVE
◎協力 | 駐日リトアニア共和国大使館、西洋美術振興財団

国立西洋美術館 [東京 上野公園]
The National Museum of Western Art



《リトアニアの墓地》1909年、テンペラ/厚紙 国立M.K.チュルリョーニス美術館、カウナス



《祭壇》1909年、テンペラ/厚紙 国立M.K.チュルリョーニス美術館、カウナス

M. K. Ciurlionis National Museum of Art, Kaunas, Lithuania.

M. K. Ciurlionis National Museum of Art, Kaunas, Lithuania.

Mikalojus Konstantinas Ciurlionis

リトアニアを代表する芸術家、ミカロユス・コンスタンティナス・チュルリョーニス (1875-1911)。絵画と音楽というふたつの領域で類まれな才能を示し、35歳の若さで亡くなるまでのわずか6年ほどの画業で、300点以上もの作品を手がけました。世紀末のアール・ヌーヴォーや象徴主義、ジャポニスムといった国際的な芸術動向に呼応しつつも、作曲家ならではの感性と、当時ロシア帝国の支配下にあったリトアニア固有のアイデンティティに根差した作品群は、唯一無二の個性を放っています。

祖国
リトアニア
で
愛される
無二の
画家



M. K. Ciurlionis National Museum of Art, Kaunas, Lithuania.

《レックス (王)》1909年、テンペラ/カンヴァス 国立M. K. チュルリョーニス美術館、カウナス

関連イベント

ヴァルギニア・ヴィトウキエネ
国立M. K. チュルリョーニス美術館館長 講演会
2026年3月28日(土) 14:00-15:30

会場：国立西洋美術館講堂（事前申込制）
※他イベントなど、詳細はウェブサイトでご確認ください

展覧会特設サイト

チュルリョーニスと展覧会をもっと知っていただけるよう、特設サイトでは担当研究員による解説動画、展覧会の舞台裏など様々な情報を発信しています。音楽家でもあるチュルリョーニスの楽曲を楽しめる特別なプレイリスト、リトアニアの風景、関連イベントなど、最新情報はこちらでチェックを。



<https://2026ciurlionis.nmwa.go.jp/>



リトアニアの風景：チュルリョーニスが育った家（ドルスキニンカイ）
Photo: Yayoi Arimoto



祖国リトアニアにおける生誕150周年の祝賀ムードを引き継いで開催される本展は、日本では34年ぶりの回顧展。国立M. K. チュルリョーニス美術館が所蔵する主要な絵画やグラフィック作品、約80点を紹介します。人間の精神世界や宇宙の神秘を描いた幻想的な作品の数々のうち、謎に包まれた最大の代表作《レックス (王)》が日本で初公開。また、音楽形式を取り入れた連作や、自身の手になる楽譜、展示室に流れる旋律をとおして、優れた作曲家でもあった画家の個性と感性を体感していただけます。2000年以降、オルセー美術館（パリ）をはじめヨーロッパ各地で展覧会が開催されるなど再評価の機運が高まるチュルリョーニスの世界をぜひご堪能ください。



1	5	6	7
2			
3	8		
4	9		

M. K. Ciurlionis



- 1.《おとぎ話 (王たちのおとぎ話)》1909年、テンペラ/カンヴァス
- 2.《おとぎ話 (城のおとぎ話)》1909年、テンペラ/厚紙
- 3.《おとぎ話II [三連画「おとぎ話」より]》1907年、テンペラ/紙
- 4.リトアニア民謡「走れ、刈り上げの列よ」のためのヴィネット 1909年、墨/紙
- 5.《第五ソナタ (海のソナタ)：アレグロ》1908年、テンペラ/紙
- 6.《第五ソナタ (海のソナタ)：アンダンテ》1908年、テンペラ/紙
- 7.《第五ソナタ (海のソナタ)：フィナーレ》1908年、テンペラ/紙
- 8.《春》1907年、テンペラ/紙
- 9.《プレリュード (騎士のプレリュード)》1909年、テンペラ/紙

すべて国立M. K. チュルリョーニス美術館 (カウナス) 所蔵
M. K. Ciurlionis National Museum of Art, Kaunas, Lithuania.